

2 変数の微分積分学の基本定理

たしろ ひさと
田代 久人

被積分関数が1変数のときの微分積分学の基本定理

$$\frac{d}{dx} \int_a^x f(t) dt = f(x)$$

の $f(t)$ が $f(x, t)$ と2変数の被積分関数となったとき、次の関係式が成り立つ。

$$\frac{d}{dx} \int_a^x f(x, t) dt = \int_a^x \frac{\partial}{\partial x} f(x, t) dt + f(x, x)$$

数学が得意な生徒に、偏微分の図形的な意味を紹介し、若干の計算問題の演習を課し、上の定理の証明を理解させたのち、「検算に使いなさい」と言って使用させている。

これを使うと、結果の見通しが容易につく場合がある。

偏微分法は大学では、数学の講義より先に、1年生の物理学でおかまいなしに出てくるだろうし、また、予備校では、物理の授業に出てきたと言って、浪人生から感謝されたこともある。証明は次のようになるが途中の……の部分空白の虫食い問題にして解かせている。

【証明】

$$\begin{aligned} & \frac{d}{dx} \int_a^x f(x, t) dt \\ &= \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\int_a^{x+\Delta x} f(x+\Delta x, t) dt - \int_a^x f(x, t) dt}{\Delta x} \\ &= \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{1}{\Delta x} \left\{ \int_a^{x+\Delta x} f(x+\Delta x, t) dt - \int_a^{x+\Delta x} f(x, t) dt \right. \\ & \quad \left. + \int_a^{x+\Delta x} f(x, t) dt - \int_a^x f(x, t) dt \right\} \\ &= \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{1}{\Delta x} \int_a^{x+\Delta x} \{f(x+\Delta x, t) - f(x, t)\} dt \\ & \quad + \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{1}{\Delta x} \int_x^{x+\Delta x} f(x, t) dt \end{aligned}$$

(偏微分の定義と積分の平均値の定理から)

$$= \int_a^x \frac{\partial}{\partial x} f(x, t) dt + f(x, x) \quad \text{【証明終】}$$

(※) 勿論、この定理の系として、

$$\frac{d}{dx} \int_a^x f(t) dt = f(x) \text{ が容易に導かれる。}$$

今から約30年前、新任の数学教師になった年に会った入試問題[次の例題]を解いていて、何か公式がないか? と思い、それ以来「秘かに」使わせている。

毎年数題これが役立つ問題が出題されている。

('99では、「慶応(理工)3番」など。

'00では、「北里大(医)3番」、「日本女子大(理)4番」、「姫路工大(工)3番」、「前橋工科大3番」など)

例題 x に関する連続な関数 $f(x)$ が次の関係を満たしている。

$$f(x) = xe^x + \int_0^x f(t) \sin(x-t) dt$$

(1) $f''(x)$ を求めよ。

(2) $f(x)$ を求めよ。 ['71 早大理工]

《解答1 (従来の方法)》

(1) 変数を分離して

$$\begin{aligned} f(x) &= xe^x + \sin x \int_0^x f(t) \cos t dt \\ & \quad - \cos x \int_0^x f(t) \sin t dt \end{aligned}$$

積の微分法から、

$$\begin{aligned} f'(x) &= (1+x)e^x + \cos x \int_0^x f(t) \cos t dt \\ & \quad + f(x) \sin x \cos x \\ & \quad + \sin x \int_0^x f(t) \sin t dt - f(x) \cos x \sin x \\ &= (1+x)e^x + \cos x \int_0^x f(t) \cos t dt \\ & \quad + \sin x \int_0^x f(t) \sin t dt \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} f''(x) &= (2+x)e^x - \sin x \int_0^x f(t) \cos t dt + f(x) \cos^2 x \\ & \quad + \cos x \int_0^x f(t) \sin t dt + f(x) \sin^2 x \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &= (2+x)e^x + f(x) - \int_0^x f(t)\sin(x-t)dt \\ &= 2(x+1)e^x \end{aligned}$$

(2) (途中略：旧課程) 微分方程式を解いて、

$$f(x) = 2(x-1)e^x + x + 2$$

《解答 2 (定理を用いる方法)》

$$(1) f'(x) = (1+x)e^x + \int_0^x f(t)\cos(x-t)dt$$

$$\begin{aligned} f''(x) &= (2+x)e^x \\ &\quad + \int_0^x f(t)(-1)\sin(x-t)dt + f(x) \\ &= (2+x)e^x + xe^x = 2(x+1)e^x \end{aligned}$$

(東京都立成瀬高等学校)